

## 平成8年度をふり返って 思いつくままに

館長 中力 昭

平成8年度が終わるにあたり、通年とは違った事業にスポットをあて、若干の感想を記したい。

平成8年4月、桜花満開を過ぎた頃、昨年度末に購入することとなった重要文化財赤韋威大鎧を5月連休にかけて一般公開することとなった。館全体を公開準備のため、一気に多忙戦争に巻き込んだこの大鎧は平安時代末期の制作とみられ、源氏と平氏が戦っていた頃、武将が実際着用していたものとみられるもので、承久の乱(1221)の後、備中の地に来住した地頭の後裔の家(赤木家)に伝わっていたものである。この赤韋威大鎧と同時代に製作されたとみられる大鎧は全国に数例しかなく、厳島神社(広島県)や大山祇神社(愛媛県)などすべて神社に奉納されたものであり、個人所有物件であったのは当館のものだけである。

赤韋威大鎧は、鉄や革の小札<sup>あかねそめ</sup>を茜染の韋で綴った大鎧のことである。大鎧と兜を合わせた総重量は25kgもあり、騎馬による弓矢合戦が中心であった頃はこのような重い鎧や兜を着けて戦っていたわけで、源氏と平氏の合戦を描いた絵巻などにしばしば登場している。実戦に使用した鎧は痛みやすく、そのたびに補修が加えられる為、もとの姿を維持したまま現存する平安時代末期の大鎧は他にはなく、全国でもこの大鎧が唯一のものである。

鎧と兜は戦場で生命を託するものだけに、鍛工、漆工、鍍金、彫金、染織、皮革加工など当時の工芸技術の粋を集めて作られており、日本工芸史上極めて貴重な遺品といえる。10日間程度の公開だったが、県民の関心は高く約1万人の人達に鑑賞していただいた。しかし、損傷が激しく、簡単な補強を東京国立博物館に依頼していたが、このほど完了し、近く公開することになっている。

本年度、もう一つ大きな事業として「国立博物館・美術館巡回展」を開催した。文化庁の主唱による事業で、岡山県立博物館で公開された遺品は、国宝4件、重要文化財31件を含む164件の貴重な文化財の数々で、地方では公開されることの少ない、日本

の至宝ともいえるものばかりだった。中でも考古資料に岡山県内出土遺物が4点展示され、注目をあびた。こうした遺物が地方の博物館に常時展示できるようになるならば、地方文化振興にもつながるのではとふと思ったのは私だけだったろうか。この展覧会も好評で、厳寒期にもかかわらず、1万人を超す人々に鑑賞していただいた。

岡山県立博物館も開館して27年目を迎えている。時代は進展し、新県立博物館の噂も出てきているが、このことは生涯学習社会となった現在、博物館に対する県民の期待の大きさを物語っているといえよう。さらに施設の整備、職員の資質向上等に努力し、県民の期待にこたえ、岡山県立博物館が文化の継承、発展の中心となって時代が動くことを望んでやまない。



重要文化財 赤韋威大鎧

# 歴史を彩るひとびと

## － 岡山の古代・中世－

平成8. 10. 19(土)～11. 17(日)

今年度岡山県立博物館は開館26年目を迎えた。これを機に、岡山県の歴史に関わった人々をまとめてみようというのがこの企画である。平成8年度を初年度とし、平成9年、10年度には江戸時代の人々をとりあげる予定である。今年度は古代・中世の人々を歴史の流れの中で位置づけしながら紹介した。

### 1、買地券・死亡人帳の人々

買地券は死者のために地主神から墓地を買い、地主神の保護を求めめるために、趣旨を刻んで土中に埋めたもので、備中下道郡内で4点の発掘例がある。「備中国大税負死亡人帳」は天平11年(739)死亡によって大税の返済を免除された人々を書き留めたもの。正倉院文書に都宇・窪屋郡全部と賀夜郡の一部が残る。

### 2、都で活躍した人々

吉備真備と和氣清麻呂は奈良時代の中央政界で活躍した政治家であった。真備は備中の豪族下道朝臣の出身。大学で学んだ後、遣唐留学生として唐に学び、帰国後、聖武天皇に重用され、後には右大臣になって政治の中枢を占めた。和氣清麻呂は備前の新興豪族和氣氏の出。姉の広虫が孝謙・称徳天皇に重用されたことから政界に入り、皇位を狙った道鏡の野望を阻止したことで知られる。



重要文化財 陸波羅南北過去帳 滋賀県 蓮華寺

### 3、平家物語の人々

平家一族の台頭から滅亡までを描いた「平家物語」には備前の難波経遠や備中の妹尾兼康など備前・備中に本拠を置いた武士たちが登場する。展示は「平家物語絵巻」を中心に構成した。

### 4、太平記の人々

「太平記」には、播磨の赤松円心や備前の児島高德、佐々木信胤、備中の新見・那須・三村・庄、美作の菅家・江見・渋谷など多数の武士が登場する。元弘3年(1333)近江番場宿で自刃した六波羅探題北条仲時以下430余の名前を記した「陸波羅南北過去帳」や足利尊氏の「観世音法楽和歌」などの資料によって内乱期を生き延びた人々を紹介した。

### 5、鎌倉仏教の人々

「法然上人絵伝」や「法然上人画像」、栄西頂相、「南無阿弥陀仏作善集」などを展示して、わが国の宗教界に大きな足跡を残した法然と栄西、東大寺再建に関わって県内各地に事蹟を残す重源を紹介した。

### 6、日蓮門流をひろめた人々

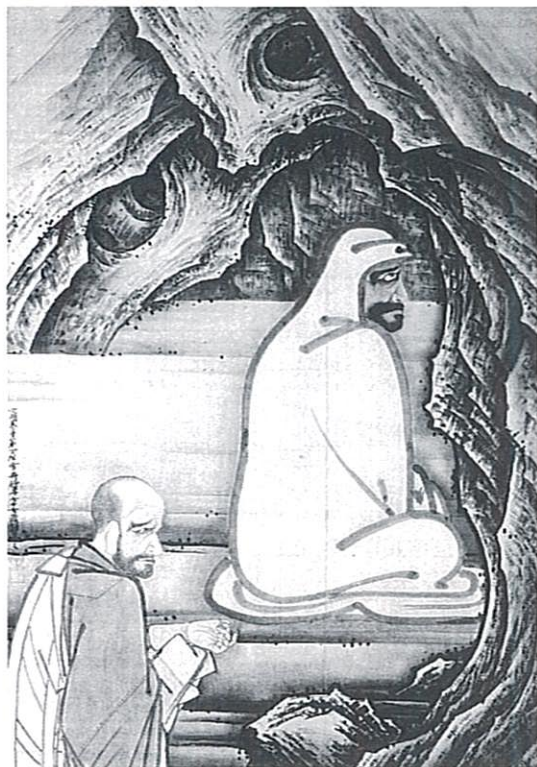
初めて岡山の地に日蓮の教義を広めたのは南北朝時代、京都妙顕寺の大覚であった。その後、室町中期に本門法華宗の日隆によって牛窓本蓮寺・宇多津本妙寺などが開かれ、中世末～近世期には、京都本国寺日禎と浦伊部の豪商来住法悦とのつながりが、京都へ備前の高瀬舟を伝えた。展示はこれら3人の関係資料を中心に構成した。

### 7、禅宗の人々

臨済宗の寂室元光は勝山町の出身。中国留学の後、諸国を遍歴し、永源寺をはじめ各地に寺院を開いた。画僧として知られる雪舟も臨済宗の僧。宝福寺で修行した後、京都相国寺に入り水墨画を学んで知られた。一方室町時代には、備中・美作国へ実峰良秀とその門下によって曹洞宗が進出し、矢掛町の洞松寺や井原市の法泉寺などがその中心をなした。

### 8、新見荘の人々

新見荘は備中北部新見市付近にあった京都東寺領の荘園で、現地の役人(三職)と東寺から派遣され



重要文化財 恵可断臂図 雪舟筆 愛知県 齐年寺

た代官によって管理された。展示は「東寺百合文書」の中から関係文書を選んで構成したが、特に「たまかき書状」は多くの入館者に注目された。

### 9、守護と守護代

室町時代に県内に展開した守護と守護代の活動の様子を備前国守護赤松氏と守護代浦上氏、美作国守護尼子氏、備中守護細川氏の関係資料を通して紹介した。

### 10、戦国時代の武将たち

備中の伊勢盛時と同一人物であろうかといわれる北条早雲、備前・美作を掌握した戦国大名宇喜多氏、備中の三村氏・細川氏に關係する資料を展示して、戦国時代の備前・美作・備中の様子を紹介した。

### 11、高松城水攻めをめぐる人々

宇喜多氏は直家の時、備前・美作、播磨の一部を領有するまでになった。直家は織田信長の勢力が西に伸びると、毛利とこれに対抗したが、やがて信長

と結んで毛利氏と対立するようになった。信長配下の羽柴秀吉は直家の死後まもなく備中へ進出し、天正10年（1582）高松城を水攻めした。展示では、高松城主清水宗治と豊臣秀吉の關係資料を中心に、高松城水攻めをめぐる人々を紹介した。

なお、展覧会会期中の10月26日（土）には奈良大学教授藤井学氏による「鎌倉仏教と岡山」と題する記念講演会を開催した。

## 主な展示資料(国宝・重要文化財のみ)

(資料名)	(時代)	(所蔵者)
下道閑勝依母夫人骨蔵器	奈良	矢掛町 閑勝寺
陸波羅南北過去帳	南北朝	滋賀県 蓮華寺
観世音法楽和歌	南北朝	広島県 浄土寺
浄土寺文書	南北朝	広島県 浄土寺
藍葦威肩白腹卷	南北朝	牛窓町 遍明院
法然上人絵伝 48巻のうち巻37	鎌倉	京都府 知恩院
金山観音寺縁起	室町	岡山市 金山寺
南無阿弥陀仏作善集	鎌倉	東京大学史料編纂所
金山寺住僧等解並東大寺重源外題	鎌倉	岡山市 金山寺
日像上人讓状	南北朝	京都府 妙顕寺
大覚上人讓状(日像上人讓状共)	南北朝	京都府 妙顕寺
日像上人書状	南北朝	京都府 妙顕寺
寂室元光墨蹟(遺偈)	南北朝	滋賀県 永源寺
寂室元光墨蹟(風攪飛泉詩)	南北朝	滋賀県 永源寺
寂室元光消息	南北朝	滋賀県 永源寺
四季山水図 伝雪舟筆	室町	京都国立博物館
恵可断臂図 雪舟筆	室町	愛知県 齐年寺
たまかき書状(東寺百合文書のうち)	室町	京都府立総合資料館
北条早雲像	室町	神奈川県 早雲寺
三村家親書状(東寺百合文書)ほか	室町	京都府立総合資料館



特別展記念講演会

## 日本と東洋の美

平成9. 1. 18 (土) ~ 2. 16 (日)



開会式

この巡回展は平成6年度から文化庁の主唱によって始められた展覧会で、東京・京都・奈良の国立博物館など、国が所有する国宝・重要文化財等の文化遺産を全国の多くの人々に楽しんでいただくために企画されたものである。本年度は、愛知県の豊橋市美術博物館と岡山県立博物館の二カ所で開催された。開会式は、吉田茂文化庁長官ほか多くの方々のご出席を賜り、華やかな幕開けとなった。

この展覧会では、原始・古代から江戸時代にかけて、中国や朝鮮半島などの文化の影響を受けながら、形成された日本の伝統美の世界を「美の萌芽」「仏教の美術」「唐物と唐様」「和様の展開」という四つのテーマを設けて紹介した。展示は考古、絵画、彫刻、金工、漆工、染工、書跡など幅広い分野から構成され、多くの方々に楽しんでいただいた。

仮名の至宝ともいふべき「元暦校本万葉集」(国宝)「和歌体十種」(国宝)、岡山ではまず目にすることのない平安仏画「十一面観音像」(国宝)雪舟筆「花鳥図屏風」(重要文化財)など国宝4件、重要文化財31件を含む164件の至宝はご来館の方々に魅了した。またこの度は、真備町出土「袈裟繡文銅鐸」、牛窓町出土「装飾付子持付壺」など、岡山ゆかりの文化財が里帰りをしたのも話題となった。

寒い時候にもかかわらず、多くの入館者があり、連日活気に満ちた会場となった。

会期中、二回の講習会と一回のシンポジウムを開催したが、いずれも好評で、併せて700人近くの方が聴講した。



十一面観音像(国宝) 奈良国立博物館

講演会 会場：岡山県立博物館講堂

1、「日本と東洋の美」

講師：東京国立博物館企画課長 安藤孝一氏

日時：1月18日(土) 13:30~15:00

2、「和洋の書」

講師：東京国立博物館書跡室長 島谷弘幸氏

日時：1月25日(土) 13:30~15:00

シンポジウム 会場：岡山県立美術館ホール

「大陸文化の導入と日本人の美意識

— 仏教美術を中心に —

日時：2月1日(土) 13:00~15:30

基調講演及びコーディネーター

岡山大学教授 齋藤孝氏

パネラー：神戸大学教授 百橋明徳氏

東京国立博物館列品室長 松本伸之氏

東京国立博物館彫刻室長 山本勉氏



展示風景

## 中国山地のくらし

平成8. 6. 27 (木) ~ 8. 4 (日)

県北の中国山地一帯では、豊富な山林資源を活用した製材・木炭製造業のほかに、たたら製鉄(砂鉄製錬)・木地挽・和紙・養蚕・畜産業など独特の山地産業が展開され、地域の開発に大きく貢献した。しかし、戦後の高度経済成長を契機として在来産業は衰退し、激しい人口流出とともに極端な過疎化が進行した。この展覧会は、消滅していった中国山地一帯での生業に関する各種の資料により、その地域で展開された産業史の一端と、人々の生活の足跡をたどろうと企画した。

### 主な展示資料

(資料名)	(採集地)	(所蔵者)
下刈り鎌	勝山町月田	本館
各種の鋸・鉞	"	"
木地屋文書	上斎原村	個人
木地用轆轤・鉋	湯原町田羽根	本館
和紙原料	久世町	"
蒸し桶	新見市高尾	"
打ち盤・打ち棒	勝田町梶並	"
漉きふね	"	"
蚕座・給桑台	津山市 津山弥生の里文化財センター	
桑籠・桑切り包丁	"	"
鉄穴流し関係文書	上斎原村	個人
砂鉄・玉鋼		美甘村教育委員会
小割鉄	富村	富村教育委員会
作州鎌忠兵衛鎌	津山市	個人
作州鎌製作道具	津山市 津山弥生の里文化財センター	
藁細工	上斎原村	上斎原村教育委員会
むしろ編み機	新庄村	新庄村教育委員会
がま背子	上斎原村赤輪瀬	個人
がま背子編み機	"	"



テーマ展の展示風景

## むかしのメディア

—情報をどう伝えたか—

平成8. 8. 8 (木) ~ 9. 8 (日)

現代の社会は、高度情報化社会といわれている。テレビ・ラジオなどの映像や音声をはじめ、新聞・雑誌などの活字を中心としたマスメディアを通して、大量の情報が一度に伝達され、日々の生活の中にあふれている。このような社会にあっては、多くの情報の中から正確なものを選択し、真実をみきわめる冷静な判断力が要求されている。

この展覧会では、現代ほど大量の情報のなかった時代に、人々がどのようにして情報を手にいれ、伝えていたのかを探り、情報伝達の方法を歴史的にとらえようとした。

### 主な展示資料

(資料名)	(所蔵者)
(1) 「どうした? どうした?」…[情報の伝達]	
京橋渡り初め図	岡山市立中央図書館
籠	美甘村教育委員会
七里飛脚関係文書	個人
錦絵(安政大地震)	"
花火筒	高梁市郷土資料館
(2) 「かみさま! ほとけさま!」…[絵解きと寺社参り]	
由加山全景之図版木	倉敷市 蓮台寺
金刀比羅山全図	個人
備前西大寺会陽之図	西大寺文化資料館
六道曼荼羅	・作東町 観音寺
熊野那智参詣曼荼羅	個人
(3) 「ひかえい! ひかえい!」…[情報の支配]	
八塔寺制札	吉永町美術館
疏状箱掟書	津山郷土博物館
・キリシタン禁制	"
人相書	岡山大学附属図書館
「いらっしゃいませ!」…[看板と引札]	
各種引札	個人ほか
各種看板	高梁市郷土資料館ほか
各種広告	美作町歴史資料館ほか
版本『山陽吉備之魁』	
	岡山県総合文化センター
家庭配置薬広告・袋・版木・箱・懸場帳	
	総社まちかど郷土館
各種興業案内	岡山市立中央図書館

## 博物館講座

例年好評を得ている博物館講座「岡山県の歴史と文化」を、本年度は下記の内容で実施した。募集人員60名に対し144名の募集があった。

現地見学会は、備前市内の備前焼の窯元・伊部南大窯跡・天保窯・岡山県備前陶芸美術館を訪ね、備前焼の歴史に触れる有意義な一日を過ごした。

テーマ	講師	開講日
中世～近世の幕 -賀陽町・大村道跡を中心に-	岡山県古代吉備文化財センター課長補佐 江見 正己	5/24 (金)
日本刀の姿と刃紋の変遷 -備前・備中刀を中心に-	三門美術刀剣研究会主宰 中津 勝己	
高瀬舟による河川交通の展開	学芸員 田村 啓介	5/31 (金)
瀬戸内の漁業	学芸課長 竹林 栄一	
現地見学会 (備前焼の里を訪ねて)	本館職員	6/7 (金)
戦国時代の備前見島 -木太の合戦を中心に-	主査 上林 栄一	6/14 (金)
備中松山城の築造と修復について	総括学芸員 加原 耕作	
日蓮宗の美術	学芸員 中田利枝子	6/21 (金)
雪舟流について	岡山県立美術館主任学芸員 守安 収	

## [平成8年度購入資料]

- 絹本墨画「牧童図」 1幅 江戸時代
- 池田綱政筆歌卷 1巻 江戸時代
- 備前焼 片口壺 2口 室町・桃山時代
- 木造船製造工程模型 1式 現代
- 備前焼 献上徳利 1口 江戸時代
- 絹本著色 天神図 1幅 江戸時代

## [平成8年度寄贈資料]

- 冷蔵庫(氷冷式) 1台 倉敷青陵高等学校

- 美作国絵図 1舗 東京都 大島 良一
- 刀装金具 4点 米国 デビッド・キヨシ  
・ニノミヤ
- 銀地金象嵌筭 1組 米国 アリス・ヨシコ  
・ニノミヤ
- 菊花色絵簪 1本 ”
- 群鶏図香炉 1口 岡山市 近藤 敏之
- 金製帯留 1個 ”
- カフスボタン 1組 ”
- 銃剣 1口 岡山市 門皿 勝秀
- 船大工用具 1式 牛窓町 草井 格

## 平成9年度事業のお知らせ

## ○「岡山県の歴史と文化」

春季展 平成9年2月22日(土)～5月25日(日)

夏季展 平成9年5月29日(木)～8月24日(日)

秋季展 平成9年8月28日(木)～10月19日(日)

冬季展 12月1日(月)～平成10年3月15日(日)

## ○特別展「歴史を彩るひとびと」

-岡山の大名と家臣たち-

平成9年10月25日(土)～11月24日(日)

## ○企画展「岡山県指定重要文化財Ⅲ」

平成9年4月26日(土)～5月25日(日)

## ○企画展「ふねとくらし」

平成9年7月19日(土)～8月24日(日)

## ○新発見考古速報展'97

平成9年12月1日(月)～12月23日(火)

## ○博物館講座「岡山県の歴史と文化」

平成9年6月～7月中の5日間

岡山県立博物館だより No.48

発行日 平成9年3月31日

発行者 岡山県立博物館

館長 中力 昭

☎(086)272-1149